

◇ 国 語

国2-1～国2-14まで14ページあります。

第一問 次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

政権所在地によつて時代をわかつことも、まるきり区分の原理をもたないわけではない。文芸の展開は政治の動向によつてうとう強く影響されるのであるから、政治史的な区分を、ある程度は伴うはずだけれど、また文芸は、文芸自身のもつ必然性によつて、独自の展開をすることもある。その間の「ずれ」をしばらく括弧かっこのなかに入れておくことが、すなわち便宜的なのである。これに対して、文芸自身の展開に即して時代を区分しようとする立場もある。叙事詩・抒情詩・ア・劇といったような文芸的ジャンルにもとづく時代区分説がそれである。この立場は、政治史的な区分よりも、はるかに進歩したものである。しかしながら、細かく調べてゆくと、かようなジャンルの交替が文芸の展開を正確に指示しているとは考えがたい点も、けつして少なくない。この説で割り切るためには、かなり多くの事実を無視しなくてはならぬようである。

わたくしは、文芸自身のなかに在るもので文芸の展開を秩序づけるひとつの立場として、表現理念による区分を考えてみた。すなわち「雅」と「俗」とを文芸史における基本的な表現理念と認め、両者のコウサクアによつて世代が形成されてゆくと考えるのである。この立場を理解していただくには、わたくしの考える「雅」および「俗」の意義から説明するべきであろう。

わたくしどもは、永遠なるものに憧あこがれずにはいられない。それは、わたくしどもの日常心においては、あまり無いことであるが、日常心の底には、日常的でない何ものかが、深淵のようにわだかまっており、日常心がそれに行きあたるとき、日常性がどこかで綻ほころびて、永遠の光が、きらりとさしてくる。そういう意味で、わたくしどもは、永遠なるものに連なっているわけだが、わたくしども自身は、けつして永遠でない。わたくしどもが永遠でないことを自覚するとき、永遠なるものへの憧れは、いよいよ深まるであろう。しかし、憧れは、どこまでも憧れであつて、永遠なるものへの憧れは、畢竟、永遠なる憧れであるよりほかない。そうした憧れが、具体的には、宗教とか、芸術とか、科学とかの形において表現される。あるいは、宗教や芸術や科学などをバイカイバとして、私どもが永遠なるものに連なりうるのだといつてもよからう。

ところで、永遠なるものへの憧れは、北極と南極のように、ふたつの極をもつ。そのひとつは「完成」であり、他のひとつは「無限」である。いま、これを芸術の世界について考えると、完成の極にむかうものは、それ以上どうしようもないところで磨きあげられた高さをめざすのに対し、無限の極にもむくものは、どうなつてゆくかわからない動きを含む。わたくしは、前者を「イ」、後者を「ウ」とよぶことにしている。

雅なる表現はすっかり出来上がった姿にむかつて形成されるのであるから、どこまでもその姿において存在してゆこうとする。別の在りかたに置き換えられることを好まない。たとえば、模写とか翻訳とかによつて味わうならば、本ものよりも劣つた価値において享受するだけのことである。また、制作の側からいへば、既に出来あがつた形をシコウする態度となる。「既に存在する表現」ヘズイジユンし調和してゆくところに美しさがあるという意識である。歌でいへば、先例のある語で詠むのが、すなわち美しい表現なのだとする行きかたである。そうした表現は、享受の側からいって、かなり高度の予備知識を必要とする。それがどのような先例にもとづいた表現であるかを知らなければ、いっこう美しくないからである。したがつて、雅なる表現は、先例について豊富な知識をもつ享受層が前提とされがちであり、ひいては、制作者と享受者とが共同の層を形成し、みずから制作に携わる者だけが享受しうるような種類の作品を集積させると同時に、そうした種類の作品こそほんとうの芸術だとする意識を成立せしめる結果ともなつている。それを、表現の肌あいからいうと、もちろんタンセイであり精巧であり微妙であつて、かけ出しの連中や粗雑な神経の持ち主には、制作も享受もおぼつかないような表現技術が、根底に横たわつているのである。

これに対して、俗なる表現は、いまだ拓かれていない世界である。ここでは、何も出来あがつていない。だから、きまつた在りかたをもたない。異様な荒あらしさとして存在することもあれば、質朴なしたしみ深さとして現われることもある。あるいは暗澹たる不気味さとして、あるいは軽薄きわまる新奇さとして、あるいは血の滲むまなましさとして、定まるところを知らぬのが、俗の姿なのである。そのなかには、美しい珠玉があると同時に、くだらない安つぽさも少なくない。というよりも、俗は、ふつう後の意味に解されており、あなたの衣装は俗ですなと批評すれば、かならずエとして受けとられるにちがいない。しかし、それは、けつして俗せんたいの性格ではないのであつて、俗には、潑刺たる健康さや、みずみずしい純粹さや、

ひろびろとした自由さなどが、ゆたかに含まれている。俗という語の故郷であるシナの用例でも、俗は、もともと悪い意味をもっていたわけではない。俗っぽい俗へ頹廢たいはいしてゆきやすい傾向はつよいけれども、頹廢した俗だけが俗だと考えられてはなるまい。雅でも、しばしば頹廢する。ただし、雅にくらべて、俗がずっと不安定だということは認めなくてはならぬだろう。

(小西甚一『日本文学史』による)

問一 傍線部A・B・C・D・Eと同じ漢字を使うものを、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ一つずつ選ぶ。

A コウ|サク

- ① コウ|サイを放つ
- ② ドウ|コウを探る
- ③ キュウ|コウをあたためる
- ④ 条約がハツ|コウする
- ⑤ コウ|ダイな宇宙

1

B バイ|カイ

- ① 意に|カイしない
- ② 一堂に|カイする
- ③ 風流を|カイする
- ④ |カイを重ねる
- ⑤ 白昼の|カイ

2

C シ|コウ

- ① ソシ|を貫く
- ② シ|サクにふける
- ③ シ|ゴク元気だ
- ④ シ|シユに富む
- ⑤ シ|コウをあばく

3

D ズイ|ジュン

- ① ジュン|シヨクして話す
- ② ジュン|プウに帆をあげる
- ③ ジュン|シンな子供
- ④ 管内をジュン|サツする
- ⑤ キ|ジュンを設ける

4

E タン|セイ

- ① タン|セイを発する
- ② タン|セイした庭
- ③ タン|セイの妙
- ④ タン|セイな身のこなし
- ⑤ タン|セイの合唱団

5

問二 空欄 ・ に補う語の組み合わせとして最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選べ。

- | | | |
|---|------|------|
| ① | イ―永遠 | ウ―憧れ |
| ② | イ―雅 | ウ―俗 |
| ③ | イ―至高 | ウ―躍動 |
| ④ | イ―創造 | ウ―享受 |

問三 空欄 ・ に入る最も適当なものを、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ一つずつ選べ。

- | | | | | | |
|--------------------------------|-----|-----|----|-----|-----|
| <input type="text" value="ア"/> | ①史書 | ②物語 | ③詩 | ④伝記 | ⑤能楽 |
|--------------------------------|-----|-----|----|-----|-----|

- | | | | | | |
|--------------------------------|------------------------|-----|-----|-----|-------------------------|
| <input type="text" value="エ"/> | ①嫉妬 <small>しつと</small> | ②称揚 | ③非難 | ④同情 | ⑤憐憫 <small>れんぴん</small> |
|--------------------------------|------------------------|-----|-----|-----|-------------------------|

問四 傍線部(二)「ひいては」・(四)「おぼつかない」・(五)「質朴な」の本文中における意味として最も適当なものを、次の各群の①～④の中からそれぞれ一つずつ選べ。

- | | | |
|-----------|--------|-----------|
| (二)「ひいては」 | ①引き続いて | ②やむを得ず |
| | ③残念ながら | ④それが原因となり |

(四) 「おぼつかない」

- ① ぼんやりしか分かっていないこと
- ② ほとんど知識がないこと
- ③ うまく出来るかどうか頼りないこと
- ④ 判別する能力がないこと

10

(五) 「質朴な」

- ① 無骨だが憎めないこと
- ② 自然で飾り気がないこと
- ③ ぼくとつだが面白いこと
- ④ ひかえめな魅力をもっていること

11

問五 傍線部(二)「永遠なるものへの憧れは、畢竟、永遠なる憧れであるよりほかない」とは、どのような意味か。その説明として最も適當なるものを、次の①～④の中から一つ選べ。

12

- ① 永遠に憧れを持つ人は多いのだが、いくら憧れたところで人間が永遠を手に入れることは不可能である。
- ② 人間は永遠ではないと自覚した時に、すなわち、人は永遠に連なつてゆくことが出来るのである。
- ③ 有限な人間が永遠なる存在になり得ないことは分かりきっているが、それでも、憧れを持ち続けることは大切である。
- ④ 永遠なものに対する憧れは叶わぬ夢であり、結局、永遠に憧れつづけるものでしかないのである。

問六 傍線部(三)「表現の肌あいからいうと」とあるが、具体的にどのようなことを言うのか、その説明として最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選べ。

- ① 表現技術の巧拙を問題にするならば
- ② 雅な表現の特徴をいうならば
- ③ 表現を飾り立てるものをあげるならば
- ④ 雅な表現を皮膚感覚で捉えるならば

13

問七 本文の主旨に一致するものを、次の①～⑥の中から二つ選べ。

- ① 文芸は政治の動向によって大きな影響を受けつつ展開するものであるから、その展開は政権所在地によって区分することが便宜的かつ正確である。
- ② 文芸の展開を秩序づけるためには、文芸が、文芸自身のもつ必然性によって独自の展開を遂げゆくものであることを忘れてはならない。
- ③ 雅は日本の文芸を特徴づけている重要な概念であり、日本文芸は総じて、ひとえに雅を追及してきたといっても過言ではない。
- ④ 雅なる表現を、和歌について言えば、先例にもとづく表現を第一にするので、その詠作にも享受にも高度で豊富な知識を要する。
- ⑤ 古典は難解であるので、初心者は翻訳によって味わうことが多いのであるが、翻訳は原作よりも劣った価値しかないことを認識すべきである。
- ⑥ 俗を雅よりも劣った価値しかないと考えるのは誤りで、俗の性格には、雅にはない無限の魅力がゆたかに含まれている。

14

15

第二問 次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

一九四六年に ア で出版された『菊と刀』は、明治以降の日本の文化や生活様式の特徴を詳細に描き出した名著として、いまも名高い。

この本のなかで、著者ルース・ベネディクト女史は、日本人の行動や人間関係の不可解さを、日本人の「義理」を重んじる姿や、非合理的にも見える手段で、自身に降り掛かったオメイをそそごうとする行動体系を、戦争の相手国から見た冷静な目線と労を惜しまぬ研究で、生き生きと描き出している。

日本人は、自分の行動に対して、世間の人がどのように判断し批判するであろうかということに気をくばり、世間の目を気にしながら、その推測した他人の判断を基準にして、自分の行動の方針を決める。このように、他人の目を気にし、恥をかかないよう、面目を保つよう名誉というものを重んずるのが、日本人の行動様式、ひいては日本の型である。ベネディクト女史は、これを日本人の イ であると強調した。

これに対し、彼女は欧米、つまりキリスト教の世界の文化の型は「罪の文化」であるとした。罪の文化は、生活行動の基礎を個人の罪悪感のうえに置く。欧米人は、内面の良心の声を重んじ、罪の自覚に基づいて、自主的に善なる行為を行おうとする、あくまでも イ とはタイシヨウ的な性格を持つものとした。

あまりにも有名な日本研究についての著書だが、いま、読み返してみても決して古さを感じさせない。いや、むしろ、ここに描かれた姿こそ、日本人の「あるべき姿」を指し示す一級の資料であるとすら思える。

日米の戦争中の俘虜の行動体系について、彼女は非常に興味深い指摘をしている。少し長いが引用してみたい。

「西欧の兵士たちと日本の兵士たちとの間の最もケンチヨな違いは、たしかに、後者が俘虜として連合軍に協力した点であった。

彼らはこの新しい境遇に適合する生活の規則を知らなかった。彼らは名誉を失ったものであり、彼らの日本人としての生命は終わったのである。いくらかでもまとまった数の日本人が、戦争の結果いかんにかかわらず本国に帰ることを考えるようになったのは、終戦前数か月のころになってからのことにすぎなかった。あるものは殺してくれと頼んだ。『けれども、もしあなた方の習慣がそれを許さないというのならば、私は模範的な俘虜になりましょう』と言うのであった。これらの連中は模範的な俘虜以上のものであった。永年軍隊のめしを食い、長い間極端な国家主義者であった彼らは、弾薬集積所の位置を教え、日本軍の兵力配備を綿密に説明し、わが軍の宣伝文を書き、わが軍の爆撃機に同乗して軍事目標に誘導した。それはあたかも、新しい頁をめぐめるかのようにであった。新しい頁に書いてあることと、古い頁に書いてあることとは正反対であったが、彼らはここに書いてあることを、同じ忠実さで実践した。』（『定訳 菊と刀（全）』長谷川松治訳 社会思想社現代教養文庫）

名誉を重んずることは、日本人のみならずアジア全体で共通する。ことに日本では、この名誉を重んずる心、戦争で傷ついた威信を回復しなければならぬという「義理」が、国家や民族個人の原動力となったことに間違いない。

だが、古い価値観を完璧なまでに捨て去り、まるで「新しい頁をめぐめるかのように」に、主義を変更し、「同じ忠実さで実践した」のは、まさに日本人の特質である。

だが、問題はむしろここからである。この『菊と刀』に描かれていたころの日本の「古い頁」は、今の日本にはほとんど見当たらない。さらなる「新しい頁」だけが、あまりにも急速にめぐられ、当時キイにさえ映っていたはずの日本人の行動様式の型や文化の根本的な特質が、今やどこにも見当たらなくなってしまっているのである。

基本的に文化の基礎となるのは、民族の長い歴史における実績と自然環境から受けるさまざまな知恵の結晶である。これによって得られた文化は、一時的に外から受けるなにかの文化よりも、はるかに根強いものである。

たとえば、私たちチベット人は広大な高原を放牧をしながら移動していく遊牧民である。また、ある西洋民族は、原野での狩猟の影響を受けている。また、砂漠の影響を受けた文化を示す民族も見られる。このように、それぞれの文化というものは、民

族のどこか根底にしっかりと刻み込まれた逃れようのない意識のほずである。

一九七〇年以降の日本は、ウが目標となつてしまった。すなわち、取り入れることのみがその目的であるかのよう
に西洋的な価値観を止めどなく取り入れた。その意味では、七〇年以降の日本人は、たんに国際化（西洋化）という「目的」の
奴隷に成り下がつたのである。

政治や経済のシステムのみならず、流行歌やウーマンリブに見られるような西洋の考え方で、あらゆる意味で西洋を取り入
れ続けていた。Eセンザイ意識にある文化をどこかないがしろにし、エ意識、つまり、意図的に正しいものとして西洋
文化を取り入れていったのである。この時点で、日本は伝統的な「イ」を喪失し、かといって西洋的な「罪の文化」に
染まれるはずもなく、長きにわたる文化の迷走を始めるに至つたのではないだろうか。

東洋の場合、山の神、水の神、火の神と、神様ひとつとっても多様である。また、物事を考えるときも、勝つか負けるかだけ
ではなく、引き分けというあいまいさも重要視する。西洋文化の根底にあるのは悪か善か、神か悪魔か、勝つか負けるかの
オ的要素である。

日本人は、このふたつの文化の狭間に陥つてしまつたように見える。日本の多くの若者は、ふたつの文化のなかで、自分たち
のアイデンティティを探し、意識下をさまざまに続けている。

（ヘマ・ギャルポ『「国」を捨てられない日本人の悲劇』による）

問一 傍線部A・B・C・D・Eと同じ漢字を使うものを、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ一つずつ選ぶ。

A オメイ

- ①商品のメイガラ
- ②ドウメイを結ぶ
- ③勝負のメイアンを分ける
- ④ユウメイ無実
- ⑤メイシンに惑わされる

16

B タイシヨウ

- ①シヨウメイを暗くする
- ②シヨウケイ文字
- ③経歴をサシヨウする
- ④ギョウシヨウを営む
- ⑤オリンピッククをシヨウチする

17

C ケンチヨ

- ①ケンスイ運動をおこなう
- ②ケンビ鏡で観察する
- ③海外にハケンする
- ④宇宙をタンケンする
- ⑤ケンシンの働き

18

D キイ

- ①スウキな運命をたどる
- ②進取のキフウがある
- ③注意をカンキする
- ④平和をキキウする
- ⑤計画がキドウに乗る

19

E センザイ

- ①建物をセンキヨする
- ②環境がオセンされる
- ③犯人がセンブクする
- ④ことばのヘンセン
- ⑤センレンされた手法

20

問二 空欄 ア・イ・ウ・エ・オ に入る最も適当なものを、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ一つずつ選べ。イ は三カ所あるが、三カ所とも同じものが入る。

ア ①イギリス ②イタリア ③アメリカ ④ドイツ ⑤日本 21

イ ①恥の文化 ②潔の文化 ③誉の文化 ④罰の文化 ⑤罪の文化 22

ウ ①実質 ②西洋 ③輸入 ④手段 ⑤世界 23

エ ①感性的 ②理性的 ③感情的 ④理想的 ⑤感覺的 24

オ ①一か八か ^{ぼち} ②多種多様 ③三者三様 ④一気呵成 ^{かせい} ⑤二者択一 25

問三 傍線部 (一)「二級の資料であるとする」のはなぜか。最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選べ。26

- ①五十年以上前に書かれたものであるにもかかわらず、現代にも通じる日本人論を展開しているから
- ②外国人が書いたものであるにもかかわらず、日本人が書くよりも、日本人の本質をとらえているから
- ③戦前・戦時中・終戦直後の日本人の特質を詳細に分析したものはこれ以外になく、貴重な資料だから
- ④再び戦争が起こった場合、戦時中の日本人の行動様式を記録したこの著書が役に立つと考えられるから

問四 傍線部(二)『菊と刀』に描かれていたころの日本の「古い頁」とは、何を指しているのか。最も適当なものを、次の

①～④の中から一つ選べ。

27

- ①内面の良心の声を重んじ、自主的に善なる行為をおこなったこと
- ②永年軍隊のめしを食い、長い間極端な国家主義者であったこと
- ③弾薬集積所の位置を教え、日本軍の兵力配備を綿密に説明したこと
- ④自分たちのアイデンティティを探し、文化の迷走を始めたこと

問五 傍線部(三)「ふたつの文化の狭間に陥ってしまった」とは、具体的にはどのようなことか。最も適当なものを、次の①

～④の中から一つ選べ。

28

- ①西洋の善悪二元論的な宗教観と、東洋の多神教的な宗教観とが混交し、文化的混乱を招いてしまった。
- ②西洋文化一辺倒に陥ってしまい、西洋の良いところのみならず悪いところさえも取り入れてしまった。
- ③名誉を重んじ義理を重んずるといふ古き良き伝統に基づき、日本文化の特質の一切を失ってしまった。
- ④西洋文化をとめどなく追い求めたが、罪の文化に染まることもできず、本来の自分を見失ってしまった。

問六 筆者がルース・ベネディクトの著書を引用した理由として、最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選べ。

29

- ①日本兵の俘虜が、いとも簡単に連合軍に協力したという事実を取りあげたかったから
- ②日本人が文化的に迷走している根元に迫るため、この著書の分析を援用したかったから
- ③他人の目を気にし、恥をかかないよう名誉を重んずる日本人の行動様式を紹介したかったから
- ④日本と欧米の文化の違いを比較したものを取りあげて、現在の日本文化を説明したかったから

問七 この文章で筆者が述べている内容と異なるものを、次の①～④の中から一つ選べ。

30

- ①日本人は、戦後、古い価値観を完璧なまでに捨て去り、一八〇度、主義を変更したかのように見えた。
- ②日本人俘虜は、模範的な俘虜として連合軍に協力したが、これは欧米人には理解しがたいことだった。
- ③日本人は、西洋のシステムや考え方を喜んで取り入れ、本来の文化をすっかり捨て去ってしまった。
- ④一九七〇年以降、日本は国際化という目的のためには、手段を選ばない国に成り下がってしまった。